

富山市総合計画審議会
第 2 回 活 力 部 会

会 議 資 料

平成 1 7 年 1 1 月

富山市企画管理部
企 画 調 整 課

活 力 部 会 要 旨

【観光に関すること】

- まずは、合併してよかったと思える市にシなくてはならない。現在の各地域で光るのが必ずあることから、それらを結び付けることが業種ごとの活力になる。
- 活力とは、まちの魅力であり、魅力を住民と観光客両方に感じられてこそである。
- 魅力あるまちには、経済力がベースとしてあり、観光客を受け入れてくれる風土がある。
- 富山はチューリップや寒ブリという強力なブランドがあり、このブランド力をどう活かすのか、またどのように多様性の担保をとるのか、選択と集中のバランスが難しい。
- 観光案内所の現状を見ると、ホスピタリティに欠けている。これをどのようにしていくか検討しなくてはならない。
- 金沢のまちの顔は主婦・中高生・サラリーマン・学生と時間によって変化する。富山のまちの顔は1つしかない。
- 観光入り込み客数などは、指標となる数値の取り方に疑問を感じている。観光都市を目指すならば、目指すなりのデータの取りかたをしなくてはならない。
- 高山では宿泊者数の把握のため、旅館の95%がデータ提供しており、データが非常に正確である。指標を設定するにあたり、データをどのように取るのかも重要である。
- 滞在型観光を計る指標を検討する必要がある。富山の全国ブランドである“おわら”、“くすり”、“立山”を活用しないと滞在型観光は難しい。薬膳などを高齢者が楽しめるなど。

【芸術・文化・歴史・工芸等に関すること】

【国際交流・広域交流に関すること】

- 合併により富山市と飛騨市が隣接することで連携しやすくなった。市外または県外からの視点も加えることが施策として重要である。
- 広域的な指標をどう組み入れるか、指標をどう作るか検討しなくてはならない。
- 富山大学の統合により、高岡市にも富山大学のキャンパスができたことで、高岡市の若い力を富山で活用することもできる。市内の資源で完結しようとせず、飛騨や高岡などの資源も活用する視点も計画に必要と考える。
- 高山の集客力を富山でどう生かすか、高山と富山の互いの足りないところをどう補完していくかという視点や、広域的な評価の指標も取り入れる必要がある。
- 新幹線開業に伴い、東京に吸い取られるものはある程度覚悟しなくてはならないが、逆にそれ以上のものを得なくてはならない。対東京を意識した計画にするべきである。例えば、観光と定住の中間、月に1回から2回は富山で過ごすというライフスタイルも考慮しなくてはならない。それにはもてなしの心が必要である。

【産業振興に関すること】

- 雇用があるということは、人口の現状維持が期待できるということである。単なる交流人口増を図るのではなく、3次産業的な雇用の場が増えるところまでもっていく。
- 富山は開業率が低い。県民性と思われるが、規模を重視するあまり、守りに入っているように感じられる。比べて石川はオンリーワンを目指し、独立意識が強く規模は意識していない。
- 富山は工作機械と金型産業が多く、このような産業構造は大都市圏以外では富山だけであり、非常に面白い。このような現実を把握し行政として何をしていくのか議論が必要。
- 商業統計の関係のデータ、特に商業販売額なども必要。また、工業統計のデータも必要。
- 農業者は工夫していかななくてはならない状況にある。農業者の工夫についてどう評価するか。有機農業の面積、インショップの把握、グリーンツーリズムなど新しい時代の芽を評価し、伸ばしていくべき。
- 富山は野菜類の生産が非常に小さい。市内の自給目標なども必要と考える。

- 新創業につながるような指標、育てる指標も必要である。
- 山を越えると農業構造も大きく変化する。隣接県とどう連携をとって食の構造を変えていくかという観点からも広域連携は重要である。
- 石川県は、生産構造の多様性をうまく連携させている。富山県は集落営農で多様性をつぶしてしまっているように感じられる。

【人づくりに関すること】

- 農林水産業の視点から見ると、地域の力、村の力（自治力）が弱ってきている。まずはそこに、てこ入れが必要ではないか。これはあらゆる産業の原点である。
- 知恵の源泉は地域の力である。この視点は農村に限らず、都市部でも同様である。
- 活力を生み出すのは、若い力であり、若い力をどう生かすのかが重要である。
- 若年人口増加については、行政として何ができるのかを検討しなくてはならない。

【その他全体に関すること】

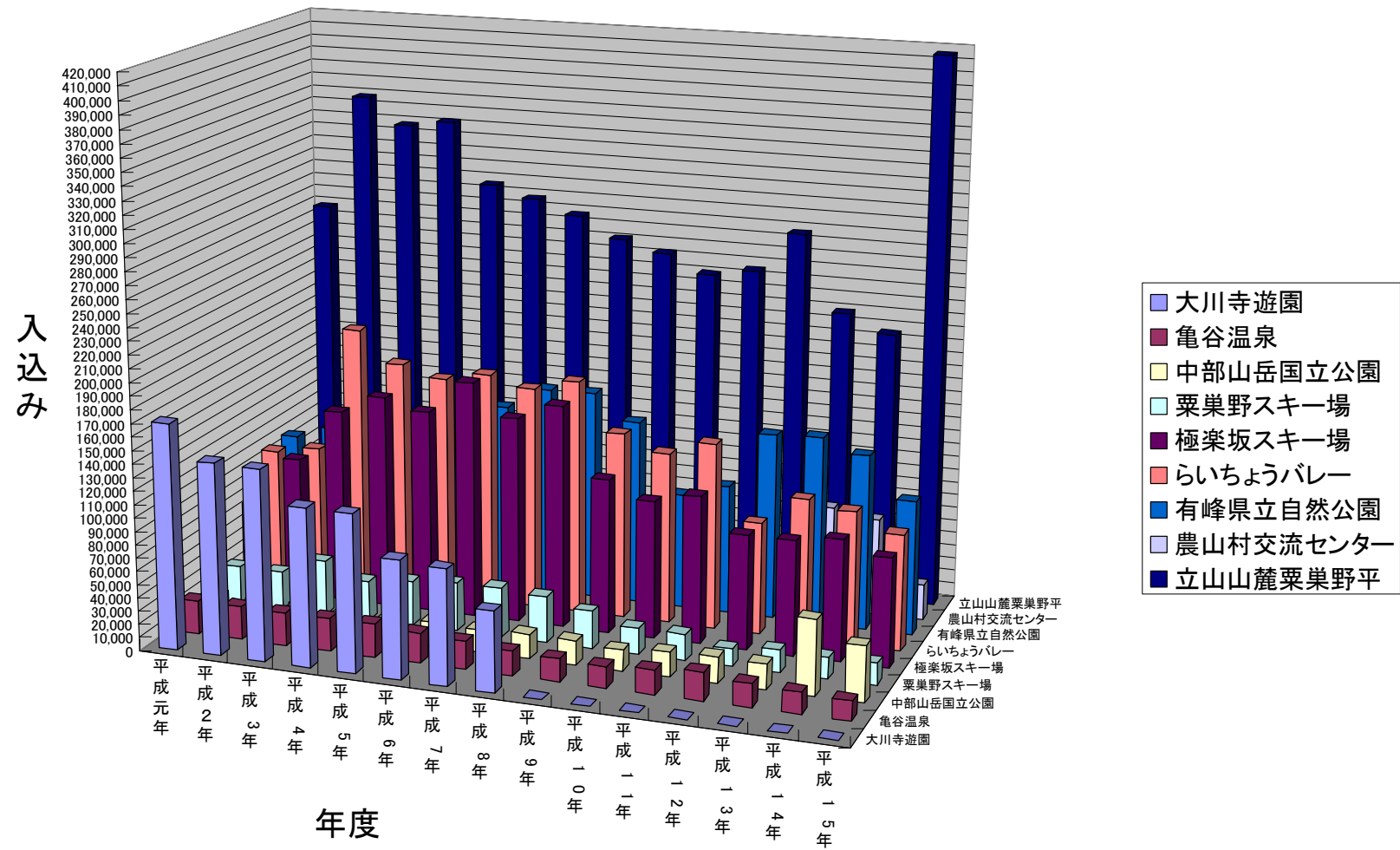
- 市民が幸せに暮らせるためには、所得が必要であり、もう 1 点は、誇りを持つこと。この 2 点を整理しながら進めるのがこの部会の役割。この 2 つの側面に市民と民間と行政の役割分担を見据えて議論する。
- 検討する内容は経済的側面と文化的側面の両面がある。この 2 つをいかにバランス良く発展させていくか、また、役割分担を意識して進めていきたい。
- 活力あるまちづくりのためには、望ましい理想像を掲げ、市民と行政の役割分担、更には行政でも国・県・市の役割分担を明らかにし、そこから最終的に何を重点化していくのか議論するべき。
- 望ましい理想像をイメージし、市や民間がそれに向かって行動することを検討するべき。
- 合併前の旧市町村の総合計画を見ると、共通のビジョン、また、そうでない部分もあることから、まずはそれぞれをリンクさせることが当面は必要ではないか。

- 市民意識調査の結果では、市民の意識、期待にばらつきがあるので、オーソライズする必要がある。特に農林業・商工業の関係にはばらつきがある。
- 合併前の旧市町村の総合計画の調整と、この広くなった市域で市民のコンセンサスをどう得るのかも重要な課題である。
- 市民が合併して良かったと思える施策の方向付けは大前提である。各地域の特性を相互に連携させ、相互に活かすことで相乗効果を導き出し、活力の資源として使っていく。
- 総合計画を検討するにあたっては、現実をどれだけ見ているのかが重要。
- 地域によって個性があって良い。熊本は福岡のベッタウンでよいとし、あえて競争するのではなく、共生するという方法をとった。このような視点もある。
- 市民意識調査についてもこのサンプル数で本当に市民の意識が見えるのか疑問である。数値の取り方を間違うと、方向性が大きくずれることになりかねない。常に実態を踏まえ、フィルターにかけることが必要である。
- 活動指標と成果指標に、さらに投入財源の指標を加える必要もあるのではないかな。
- 活動指標と成果指標にある種の上下関係を整理するべき。目標に対する手段と、成果指標に対する活動指標は同じと考えてよい。並列した表記は良くない。また、活動指標に縛られると不毛な結果になる可能性があるので注意しなくてはならない。
- 県の総合計画と市の総合計画との施策の整合性については、今後出来るものから調整が必要。
- 多様性を評価できる指標も必要である。

平成元年～ 大山町観光資源・施設入込み表

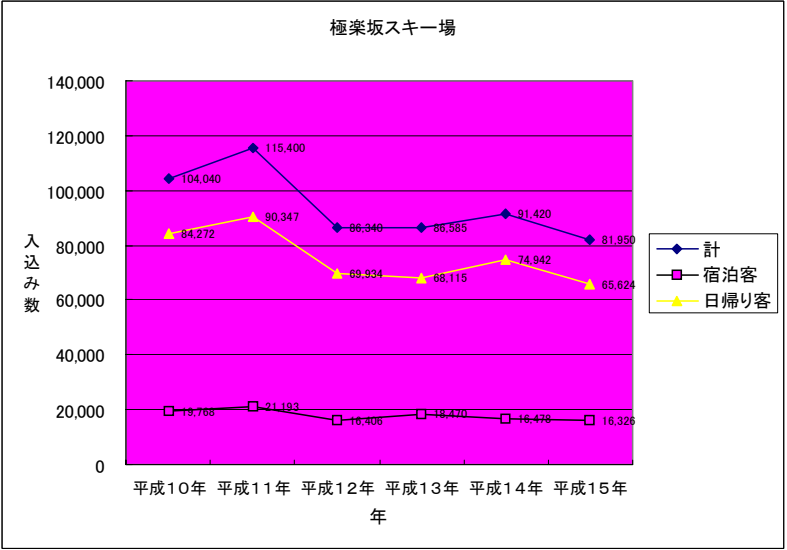
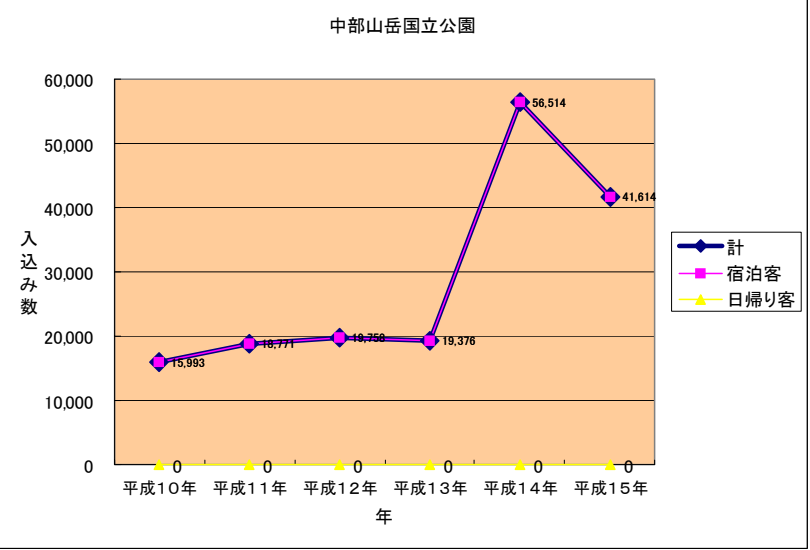
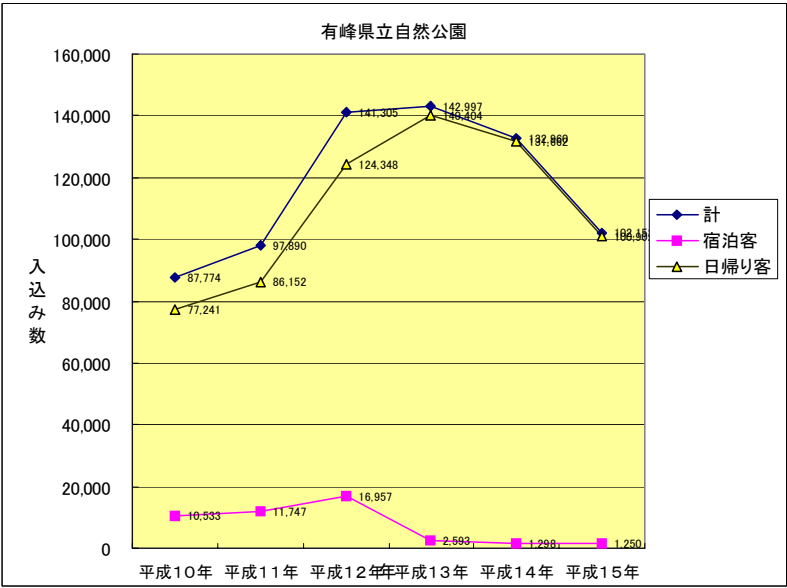
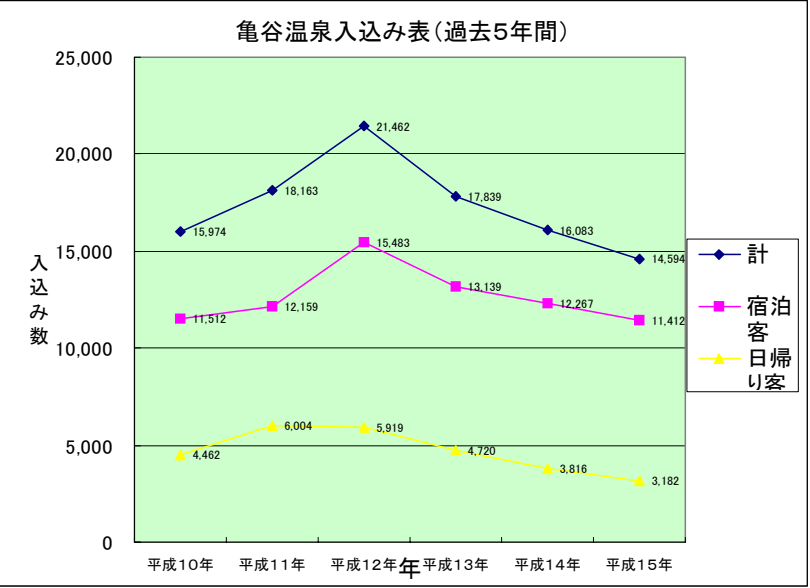
[illegible]

平成元年～入込

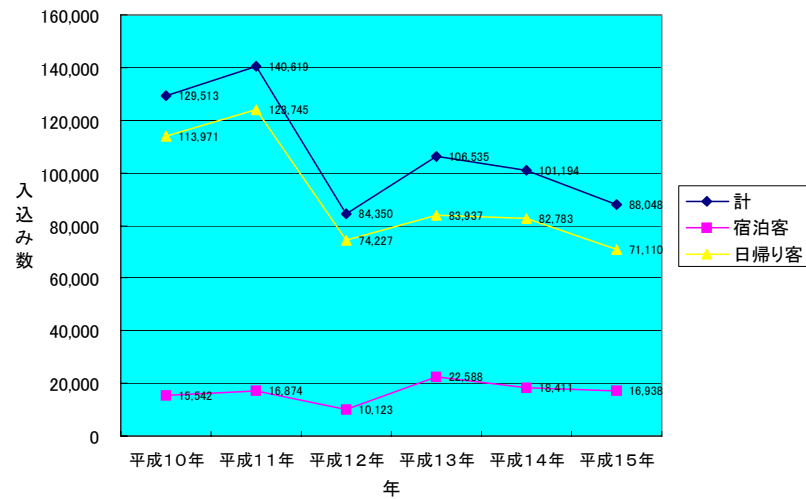


過去5年間の推移

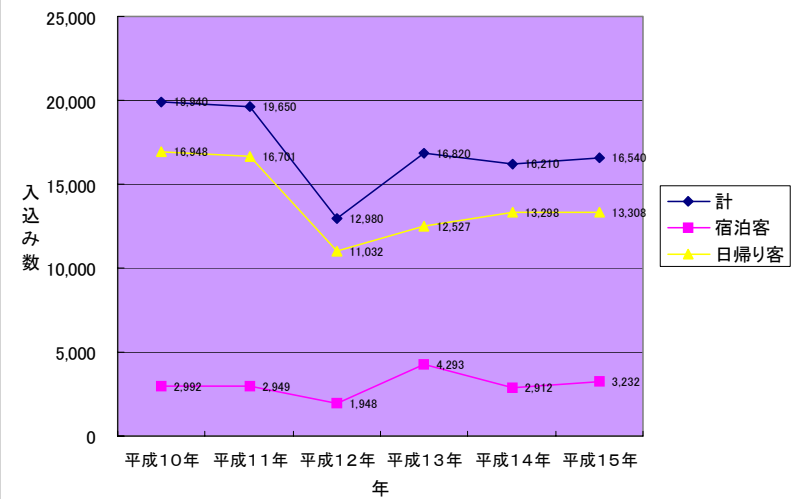
亀谷温泉	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年
計	15,974	18,163	21,462	17,839	16,083	14,594
宿泊客	11,512	12,159	15,483	13,139	12,267	11,412
日帰り客	4,462	6,004	5,919	4,720	3,816	3,182
有峰	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年
計	87,774	97,890	141,305	142,997	132,960	102,152
宿泊客	10,533	11,747	16,957	2,593	1,298	1,250
日帰り客	77,241	86,152	124,348	140,404	131,662	100,902
中部山岳国立公園	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年
計	15,993	18,771	19,758	19,376	56,514	41,614
宿泊客	15,993	18,771	19,758	19,376	56,514	41,614
日帰り客	0	0	0	0	0	0
極楽坂スキー場	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年
計	104,040	115,400	86,340	86,585	91,420	81,950
宿泊客	19,768	21,193	16,406	18,470	16,478	16,326
日帰り客	84,272	90,347	69,934	68,115	74,942	65,624
いちょうバレースキー場	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年
計	129,513	140,619	84,350	106,535	101,194	88,048
宿泊客	15,542	16,874	10,123	22,588	18,411	16,938
日帰り客	113,971	123,745	74,227	83,937	82,783	71,110
粟巣野スキー場	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年
計	19,940	19,650	12,980	16,820	16,210	16,540
宿泊客	2,992	2,949	1,948	4,293	2,912	3,232
日帰り客	16,948	16,701	11,032	12,527	13,298	13,308
立山山麓粟巣野平	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年
計	239,400	240,374	276,040	218,781	205,599	415,425
宿泊客	114,997	110,739	124,329	98,092	92,632	106,080
日帰り客	124,403	129,635	151,639	120,689	112,967	309,345



らいちょうバレスキー場



あわすのスキー場



立山山麓栗巣野平

